

みんなで

特別支援教育センター 幼稚園・保育園のための掲示板

みんなが

みんなと

のびる

テーマ

「声かけ」のポイント

幼児期の子どもへの『声かけ』は、言語の能力を伸ばしたり、自己肯定感を高めたり、社会性を培ったりする上で非常に重要だと言われています。1日の中で、子どもにどのような声かけをしているかを思い出してみると、「おはよう」「おやすみ」といった『あいさつ』や、「このおもちゃ片付けて」といった『指示』、「おいしいね」「おもしろいね」といった『共感』など、実に様々な種類の声かけがあることに気付きます。

また、声かけの仕方、積極的にたくさん声かけをするタイプの人、子どもからの発信を待ってから声かけするタイプの人、場面に応じて声かけの仕方を変える人など、千差万別であろうと思います。ただ、『子どもの力を伸ばしたい』という思いからの声かけであることはみんな同じですね。

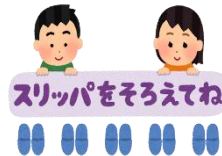
では、子どもの成長につながる声かけのポイントとはどのようなものでしょうか。押さえておくと思う内容をもとめてみました。



1 短く、端的に伝える

子どもが一度に記憶できる量には限りがあります。伝えたいことを正確に伝えるには、大事なこと、要点を端的に伝えることが大切です。

例：「座ろうね」「おやつを食べよう」「スリッパをそろえてね」



2 具体的に伝える

抽象的な言い回しだと子どもに伝わりにくいことがあります。できるだけ具体的に伝えられると分かりやすいです。言葉だけで伝わりにくい場合は、メモや具体物、写真など視覚的な情報を添えることが有効です。

例：「もうちょっとしたら行こうね」→（時計やタイマーを見せながら）「5分たったら行こうね」

3 肯定的な（ポジティブな）表現で伝える

つい、「だめ!」「やめなさい」と言ってしまうがちですが、肯定的な表現にすることで、『ではどうしたらよいのか』が分かりやすくなるというメリットがあります（ただし、緊急の場合や安全にかかわる場合は別です）。また、子どもの行動を認め、ほめる声かけをすることで、活動への意欲も高まりやすいです。

例：「走ったらだめ」→「歩こうね」「歩いたら転ばないね」

4 選択肢を用意する

子どもの『自己選択』『自己決定』の場面をつくることは、主体性や判断力を高める上で非常に重要です。普段のかかわりの中で、子ども自身が『選ぶ』場面をできるだけ多く用意できるといいですね。

例：「どっちがいい?」「どれがいい?」「何時までゲームする?」



他にも、“子どもの注意をひいてから伝える”“結果よりも努力を認め、ほめる声かけをする”などのポイントが挙げられます。これらのことを基本としつつ、子どもの様子や状況にあわせた声かけができるといいですね。

山口・防府地域 特別支援教育センター（山口県立山口総合支援学校内）

電話 083-934-4811

相談専用メール 570t155@g.ysn21.jp